

いたちかわらばん

通刊 75 号 鮪川・狹川 / 川原番・瓦版 '17 春号

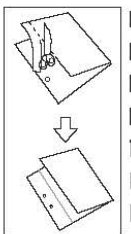


【版画 宗森英夫】

海里橋公園

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



警察学校の下流にアーチの型のパイプに沿って橋があります。外見はアーチ橋のようですが近くで見ると水管橋の横にあるのが海里橋です。海里は海上での距離の単位であるので関係ないようです。

名前の由来について調べてみると、「本郷の民話と伝説」*の小菅ヶ谷の項に、いたち川の名が立川が転嫁したのと同様に、帰ってきたときに帰陣（きじん）の祝いをして鎌倉に入ったので、帰り橋↓海狸橋（かいりはし）↓海里橋になったと記されておりあります。

「皇国地誌（相模国鎌倉郡村誌）」*に記されているいたち川に架かる橋梁名は、公田村には天神橋で横浜鎌倉間の往環を通すと記述があります。小菅ヶ谷村には新橋だけで、その他には不帰橋（カヘラズハシ）の記述があります。現在の西本郷小学校近辺の小川に架かっていたものと思われる。

一説には、本郷台駅周辺は海軍燃料廠であったことから、その当時は基地全体を厳重に塀によって護られ、いたち川はお堀のように村里と隔離する役目であったようです。当然基地に入るには本郷中学校前であった正門の他に飯島側と海里橋に入口があり、海軍と村里を結ぶ橋として名前が付いたとも言われています。

どれが正しいかは読者の皆様の判断にお任せすることにして、いたち川にはいろいろの名前の橋がありますので訪ねるのも面白いと思います。

*「本郷の民話と伝説」は昭和57年に本郷郷土史研究会の皆さんが地域の達人から話の提供を受けて編集したものです。

*「皇国地誌」は明治初期に明治政府が国内の実態を把握するため行った一連の調査結果で、村の沿革、地味、人口、社寺、産業などが記されておりあります。

（水・人・子）

市民の森のオオシマザクラ

上郷市民の森広場の東端にオオシマザクラの大木があります。花は大きく白い花柄は、周囲の常緑樹中において大変に目立つ存在です。

このオオシマザクラは昨年横浜市の「名木・古木」に登録申請致し、今年認定され登録されました。樹木の大きさは、目どおり3.5m、樹高約20m余、20年ほど前までは環状4号線の道路から白い花をつけた大木を眺めることができましたが周りのスギなどが大きくなり、現在は樹冠の一部だけがみられます。

地元のお年寄りの方の話によりますと、オオシマザクラは成長が早いので、多くは燃料用の薪として植えていたようです。この木以外に周囲にまだ10本ほどが残っています。



このオオシマザクラを、私たちは「森の御神木」と称して、森の活動の一年の納めの日に、縄を施し、お神酒を上げ、一年の無事を感謝しています。

（上郷森の会 モモンガ）

（目どおりとは、目の高さ（1.2m）の位置での胴回りを表します。）

読者からのたより

宗森英夫さんの表紙の版画がいいです。



栄区の何気ない場所（今回は柏陽高校裏）を題材にしているとところが素晴らしいです。版画に描かれている場所を毎回訪れています。

素晴らしい川で次号の版画を楽しみにしています。

港南区 Mさん

瓦版からの情報で地域の皆さんが様々な活動されている様子が伝わってきます。住宅地を流れる小さな川から、川遊びが出来、自然環境から命を育んでいく事を学び、地域の歴史まで学んでいける未来ある子供達が何が大切かを体験学習できる事が一番大切な事と思っています。私達の子供の頃には何処にでもある自然豊かな環境で育ちました。自然豊かな川を守るために、行政、地域の人達の活動、指導者が啓蒙していかれていくことでいつまでも綺麗ないたち川を後世に伝えて下さい。

藤沢市 Uさん

☆初夏のウォーキング募集☆ “ハンゲショウ”の群落

いたち川稲荷森の水辺散策路沿いには、葉の半分が真っ白に変色して雪が積もっているような情景を見ることができます。「ハンゲショウ」はドクダミ科で半夏生、半化粧と言う漢字で書かれている通り、暦の半夏（夏至のあと11日位）の期間を言い、この時期だけ葉が白く変色するのです。

散策コース

栄区役所→天神橋→扇橋水辺→稲荷森水辺広場→稲荷森バス停解散

日時：平成29年6月28日（水）

10：00（集合）～12：00（解散予定）

集合場所：栄区役所

参加費：100円（保険料等）

持ち物：飲み物、雨具

参加人数：20名（先着順）

参加要領：参加希望者は、葉書、メール、FAXで住所・氏名・性別・電話番号を明記の上、平成29年6月9日（金）までに下記に応募して下さい。（当日消印有効）

応募先：〒247-0005 栄区桂町303-19

（電話）894-8161 （FAX）894-9127

（アドレス）sa-kikaku@city.yokohama.jp

栄区役所区政推進課企画調整係担当

※内容については、和久井（いたち川 OTASUKE 隊、080-3498-0552）まで



発行：狹川 OTASUKE 隊（いたちがわおたすけたい）

OTASUKE 隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係

栄土木事務所下水道・公園係

〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19

TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127

〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1

TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421

（お便り・お問い合わせはこちらまで）

発行年月

2017年3月

通刊 75 号

初版「いたち川情報マップ」の紹介 第4弾!!
 平成8年（今から20年前）に初版
 「いたち川情報マップ」発行！
 いたちかわらばん71号から順次紹介
 しています

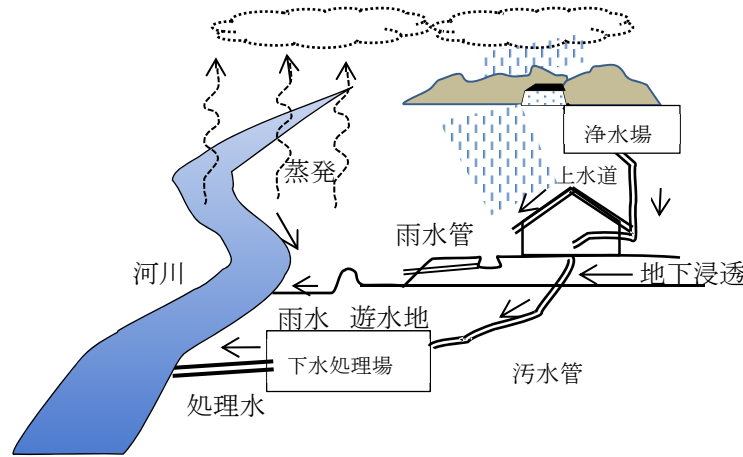


水 川の水保全について

◆水の循環

地球を覆う水は、あらゆるところから蒸発し、雲をつくり、雨となって降り注ぎます。あらゆるものを溶かしていた水は、蒸発することにより清浄になり、降雨として再び地上に降りてくることにより、私たちや生物はその恩恵を受けて暮らしています。河川の役割は治水と利水があり、洪水を防ぐ為の治水と農業用水、水道水として私たちが利用する利水があります。空と陸をめぐる水の循環に目をむけ、水の一生について考えてみましょう。

前回のかかわら版では、いたち川の水源地の説明を行いました。今回は、利水と水の保全の説明を記載いたします。



◆分流式の下水道

下水の流れは、雨水と汚水を分けた分流式になっています。道路や屋根に降った雨水は、汚水とは別の、雨水管を通して川に流れ込んでいます。この水も川の大事な水源ですが、雨が降った時にだけ急に増えてしまいます。都市型水害の原因はこの水です。昔は、林や田んぼに降った雨はいったん自然のダム(林や田んぼ)に貯められてから少しずつ流れ出して、川の水を保っていたのです。最近、雨水をいったん地中に浸透することで急な増水を防ぎ、湧水を維持することが注目されています。

◆水質保全のために（20年前のマップの記載です）

汚水と雨水の流れは別なので川の水は濁らないはずなのですが、思わぬ処から汚い水が川に入り込んでいます。雨の続いた後の晴れた日に、水面に泡が見られたり、時々油が浮いているのも見られました。ベランダ等に置かれた洗濯機の排水は、どの管に繋がっているか、ちょっと調べてみてください。間違って汚水管ではなく雨水の排水管に流れ込んでいることもあるようです。その他には、洗車の水やペンキの後始末などにもご注意ください。オイルや洗剤の混じった水が道路の溝を伝い、川に流れ込んでいませんか。



汚水と雨水を別々の管路で水再生センターまで送る方式を「**分流式下水道**」といいます。大雨が降っても雨水はそのまま川や海に流すことができるという利点があります。横浜市では現在、分流式下水道が約7割を占めています。栄区の下水道はほぼ分流式下水道になっています。

(栄土木ホームページより)

次号では川における「生物」「植物」との関わりあいを紹介していきます。
 (水・人・子)

初夏の夜のロマンを求めて

〜いたち川のホタル〜

螢(ホタル)は、日本では古来より愛されている昆虫です。世界中では2千百種類、日本では50種類あまり、横浜では数種類いるといわれています。良く知られているのが、発光して飛びゲンジボタルとヘイケボタルです。栄区内には、いたち川の源流にある瀬上沢や荒井沢、横浜自然観察の森などに、ホタルが生息できる、豊かな緑の水源地、池沼や湿地、きれいな小川があります。



ゲンジボタルはきれいな流れのあるところで6月上旬から見られます、ヘイケボタルは池沼や湿地で6月下旬から7月上旬に見られます。いちばん良く飛び交う時間は、夕方、暗くなって7時半ごろでしょうか。ゲンジボタルは、4月の雨の夜に水から出て岸辺の土の中で前蛹(まえようこ)となり、4月〜5月に蛹(さなぎ)になります。6月上旬、成虫となって飛べるようになり、残りの命はわずか1週間ほどです。オスとメスが出会い、交尾し、メスが水辺のコケに卵を産み付けます。40日ほどで幼虫となり水中で生息します。翌年までカワニナなど貝類を食べて育つという生態です。

飛んでいるホタルの成虫の放つ光はオスとメスが出会うための信号です。ホタルが子孫を残していくための大切な瞬間です、ほかの明かりがあるとホタル同士の交信ができなくなってしまうそうです。観察や観賞の際はホタルを捕まえたり、明かりで照らしたり、フラッシュをたいての撮影をしないなど、マナーを守りましょう。

人間は、自然界を観察して、たくさんのことを学んできました。ホタルの発光器からLED反射性能を向上させる設計のヒントを得た研究者もいます。パパママ、ジイジイババは、子どもの手を放さないようにして、そんな話もしてあげてください。ホタルの幻想的な光に、郷愁に浸りながら幼かったころを思い出すかもしれません。そんな素晴らしいひととき、いたち川のホタルの夕べをお楽しみ下さい。
 (つめおきな)

◆◆上郷小学校 総合学習◆◆

「わあ、魚がいるよ。」「水がきれいだね。」「楽しい。」これが、いたち川と子供達との出会いである。

横浜市立上郷小学校の3年生の児童は、今年、いたち川を取り上げて、総合的な学習を行っている。総合的な学習とは、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決していく力を養っていく学習である。普段、当たり前のように身近にある川。しかし、その川と児童との距離は意外と遠く、川で遊んだことのある児童は、全体の半数にとどまっていた。そこで、本校では、「大好き！わたしたちの町を流れるいたち川」という単元を立ち上げ、学習を進めてきた。

まず、川でおもいきり遊び、川の素敵さを肌で感じ取ることから学習を始めた。はじめは、洋服が濡れることを気にしていた児童も、遊んでいるうちに、いつの間にかTシャツまでびしょびしょになって魚を探したり、川底を観察したりしていた。児童は、はしゃぎ、自分が発見したことを友達に口々に話していた。誰もがきらきらとした笑顔にあふれていた。

次に、さらに学習を深めていくために、和久井さんとの出会いを企画した。和久井さんは、魚の捕り方がうまく、児童に大人気。また、様々な生き物の名前や生態にも詳しく、児童には、知りたい、調べてみたいが膨らんできた。護岸工事にも携わってきた方であり、護岸工事の話聞いて、川の壁面のでこぼこの様子を疑問をもち、もっと調べたいと考える児童もいた。

その後、教師が、昔のいたち川の様子を伝えた。洪水を起して多くの被害を出した川であること、魚がすめない死んだ川となり、今のきれいな川とは全く姿が違っていったことなど。

すると、児童はさらに関心を示し、調べ学習を進めていった。今では、大きく4つに分かれて調べ学習を進めている。

そのなかで児童は次のようにいたち川を捉え、考えるようになってきた。

- ①護岸工事について調べ、きれいな川を取り戻そうとした人々の思いや願いを感じる児童
- ②生き物の種類や生態を調べ、改めてきれいな川であることを実感している児童
- ③川の上流、中流、下流の様子をまとめ、私たちの町と関わり合いの深い川であることを知った児童
- ④今でも清掃活動をしている「いたち川水辺愛護会」の存在を知り、自分たちにも何かできることがあるのではないかと考える児童

いたち川が、現在のようにきれいで親しまれる川になるまでには、今も昔もたくさんの人々が関わっている。いたち川が、いつまでも子供達にとってかけがえのない存在であり、誇りに思うことのできる川であり続けてほしいと願っている。

(教諭 幸保 陽子)